けやき祭り

第 59 回世田谷区夏期農産物品評会

平成 24 年 6 月 16 日(土)・17 日(日)
馬事公苑けやき広場（来場者約 200 人）

色々な花の写真から、野菜の花を見つけ、名前を当てたり、料理の写真(主食・主菜・副菜)を的に、輪投げを楽しみました。

30 秒の間にお箸で大豆を右の皿から左の皿に。何粒運べたかしら…

世田谷野菜を使った試食会
野菜シチューや小松菜ケーキが好評でした！

災害時における食のありかた

＝ シンポジュウム｛東日本大震災時の食支援から学ぶ｝＝

平成 24 年 9 月 5 日(水) キャロットタワーセミナールーム

東日本大震災を振り返り、被災地の食支援に関わった関係者の体験から災害時における食のあり方、支援のあり方を考えてみました。

① 炊き出し・食事の提供を通して見えた被災地の食の問題　管理栄養士：森永陽子氏
② 食関連企業の立場から経験した被災地の食の問題　日本セントラルキッチン協会理事：楠見五郎氏
情報提供：世田谷区防災担当職員から、防災計画や備蓄状況について説明

東日本大震災から 1 年半がたち、過去の事になってしまいがちですが、頻発している、いつ起きるかもしれない新たな震災対策について、お互いに考え、話し合う、きっかけづくりとなりました。

＊自助（個人は何をすべきか、）
＊共助（近隣、地域間はどう連携するのか）
＊公助（行政とどう連携するのか）
という観点から考える機会となりました。

展示コーナー

どんな非常食を用意すればいいの？
災害時の使いやすい食品の紹介
災害時の食事（献立例）

災害時に使えるレトルト食品

食関連企業の食品展示

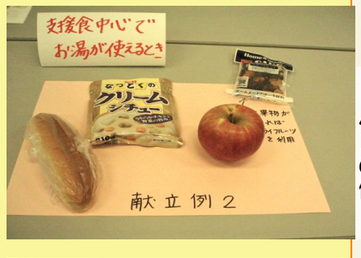
ライフライン（電気・ガス・水道）が途絶えた場合

おにぎりの例

パンの例

避難所生活の場合（支援食中心でお湯が使える時）

おにぎりの例



パンの例

麺の例

交流会

砧地域体操グループ交流会

平成 24 年 8 月 31 日(金)
祖師谷区民集会所

例年にない猛暑日の中、参加グループ数 22、元気体操リーダー、NPO スタッフも一緒になり参加総数 61 名で交流を行いました。

3 人の元気体操リーダーによる歌いながらのリズム体操やストレッチを行った後に 10 人程度の輪になり懇談を行いました。参加者からは「楽しい歌とともに身体を動かせてよかった。」「日頃、グループとの交流が出来ないので多くの方と知り合う事が出来とてもよかった。」「他のグループの活動内容が聞けて自分たちの活動の参考にしたい。」「年に一度あるとよいと思う。」等。グループ運営上の悩みとして①会員が高齢のため、代表のなり手が少ない。②グループ参加人数が少ないため、財政面の厳しさがある。③男性の参加者が少ない。④会場確保が難しい等、安定したグループ活動をするためのポイントが浮き彫りになりました。

（次回は烏山地域で開催予定）

せたがや元気体操リーダーと一緒に心と身体をほぐしました！

砧地域体操グループ交流会実行委員長として

渡邉　信之

体操・運動等中心の活動をしているグループの集まりで、互いの活動内容が理解でき、運営の悩みも同様に感じました。

日本人の平均寿命は、世界のトップクラスですが、健康寿命は延びているもののその差が拡大しているのは日本だけです。

来年、国は新たに「健康寿命の延伸」を具体的に決めますが、私達は引き続きその先駆けとして力を合わせていきましょう。